

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号	301-002	施設管理者	東伊豆町
路線名	大川小溝線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	大川林道1号橋
施設の所在地	東伊豆町大川下熊明	起点からの距離	0.05km	建設年度	1973
供用年数	47	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.5m(5.5m)	幅員(車道幅員)	4.0m(3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	コンクリート床版		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	1.4	

施設の目的利用実態等
林道大川小溝線の利用区域内には利用伐採期齢以上の立木の蓄積が多く、今後森林組合等の林業事業者や山林所有者による利用が見込まれる。現在では、国有林や風力発電施設等のアクセス道として施設管理者の利用もみられる。また、山々を散策する一般車の通行もみられ、災害時には迂回路としても利用される。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日			
	調査結果	床版下面に部分的な鉄筋露出が確認され、橋台にも小規模な欠損がみられるが、緊急性は低い。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	鉄筋露出周辺のコンクリートの様子から、施工時の不良が原因と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度			
	内容	点検			
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、次回点検時に損傷進行を確認し必要があれば対策を実施する。次回点検は定期点検前に行うこととする。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 緊急性が低い為、優先度は「中」とした。		
	対策費用(概算)	断面修復工 約 1,000千円			
管理方法	長寿命化対策として、損傷が進行しているようであれば、断面修復工を行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。また、舗装面の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)	0.0		0.0	1.0		0.0				
対策の内容・実施時期	定期点検		点検	※断面修復工		定期点検				

備 考
点検の結果、損傷進行がみられた場合に断面修復工を行う。

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号	301-002	施設管理者	東伊豆町
路線名	大川小溝線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	大川林道2号橋
施設の所在地	東伊豆町大川上熊明	起点からの距離	0.5km	建設年度	1974
供用年数	46	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.5m(5.5m)	幅員(車道幅員)	4.0m(3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	コンクリート床版		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	1.5	

施設の目的利用実態等
 林道大川小溝線の利用区域内には利用伐採期齢以上の立木の蓄積が多く、今後森林組合等の林業事業者や山林所有者による利用が見込まれる。現在では、国有林や風力発電施設等のアクセス道として施設管理者の利用もみられる。また、山々を散策する一般車の通行もみられ、災害時には迂回路としても利用される。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日			
	調査結果	橋台にひびわれ及び遊離石灰が確認される。ひびわれは広範囲にわたるが、ひびわれの幅は小さく、雨水や沢の水が浸入する箇所ではない。遊離石灰については部分的で小規模であり、緊急性は低い。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	経年的な劣化とみられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度			
	内容	点検			
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、次回点検時に損傷進行を確認し必要があれば対策を実施する。次回点検は定期点検前に行うこととする。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 緊急性が低い為、優先度は「中」とした。		
	対策費用(概算)	ひびわれ補修工 約 1,000千円			
管理方法	長寿命化対策として、損傷が進行しているようであれば、ひびわれ補修工を行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。また、舗装面の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)	0.0		0.0	1.0		0.0				
対策の内容・実施時期	定期点検		点検	※ひびわれ補修工		定期点検				

備 考
点検の結果、損傷進行がみられた場合に修復工を行う。

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号番号	301-002	施設管理者	東伊豆町
路線名	大川小溝線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	大川林道3号橋
施設の所在地	東伊豆町大川河内山	起点からの距離	1.09km	建設年度	1975
供用年数	45	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	新田川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.4m(8.4m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	PC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	2		

施設の目的利用実態等
 林道大川小溝線の利用区域内には利用伐採期齢以上の立木の蓄積が多く、今後森林組合等の林業事業体や山林所有者による利用が見込まれる。現在では、国有林や風力発電施設等のアクセス道として施設管理者の利用もみられる。また、山々を散策する一般車の通行もみられ、災害時には迂回路としても利用される。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日	
	調査結果	床版下面及び橋台に遊離石灰が確認される。橋台のひびわれは部分的で小規模であり、緊急性は低い。舗装面の排水詰まりについては、床版内への浸水原因となることから、早急に措置を講ずることが望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化原因	経年的な劣化が主な原因と考えられる。橋台のひびわれについては、施工時からの変状とみられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度	
	内容	点検	
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、次回点検時に損傷進行を確認し必要があれば対策を実施する。次回点検は定期点検前に行うこととする。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 緊急性が低い為、優先度は「中」とした。
	対策費用(概算)	ひびわれ補修工 約 1,000千円	
管理方法	長寿命化対策として、損傷が進行しているようであれば、ひびわれ補修工を行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。また、舗装面の排水詰まりについては、早急に清掃を行う。		

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)	0.0		0.0	1.0		0.0				
対策の内容・実施時期	定期点検		点検	※ひびわれ補修工		定期点検				

備 考

点検の結果、損傷進行がみられた場合に修復工を行う。